

令和7年度 上田市立東小学校 学校自己評価シート

学校目標		めざす子ども像	総合評価								
よく気づき よく考え よく働き 進んで学ぶ子ども	1 自分の言葉で語り 聴き合い 自ら行動できる子ども【自己表現力】 2 自他のよさを認め ふれ合って 協働的に学ぶ子ども【社会参画力】 3 向上心をもって ねばり強く 最後までやり抜く子ども【課題探究力】		1 概ね達成 「学習形態の工夫」「振り返りによる学習効果の自覚化」など、主体的な学習を視点にした授業改善が進んでいる。 2 概ね達成 授業での学び合いの保証、行事での学級を超えた交流により、子ども同士で問題を乗り越えようとする姿が見られる。 3 概ね達成 日常的な児童理解の共有や学年内での情報交換により、多面的に児童を捉える取組が進んでいる。								
今年度の重点目標(重点活動)			成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策		
「子どもたちが 主人公の 幸せな学校」	主体性の追究	○授業改善～子ども主役の授業～ ○子どもたちが自分で計画実行する学習 ○子どもに合わせた多様な学習スタイル	○一人で考える時間と意見交流の時間的な設定や児童から引き出した言葉や想定した振り返り場面の構想など、主体的な学びを促す取組を進めた。		○				①個に応じた学習活動と全体追究のバランスを図るために、児童が自分に合った方法(学習進度の段階化や選択型、多様な表現方法の取り入れなど)で学びに関わる授業づくりを進める。また、振り返りの視点を明確に提示し、学びの過程や気付きを共有する場を充実させることで、児童が学習の価値を実感し主体的に学び続ける姿の育成を目指す。		
	多様性に向き合う	○多様性を包み込む教育の推進 ○相手を受け止め 折り合いをつける力 ○「対話」と「笑顔」と「笑顔」で多様性に体操	○友のよさや頑張りを認め合う場の継続的な設定、互いを尊重する学級風土づくりを進め、児童同士で課題解決を図ろうとする姿につながった。日常的な児童理解の共有や学年内での情報交換により、多面的に児童を捉える取組が進んだ。		○				②互いの考えや違いを尊重する対話活動や協働的な学習場面を計画的に設定するとともに、教師による価値づけや肯定的な関わりを継続する。さらに、学年・学級を超えた情報共有の機会を充実させ、多面的な児童理解を基盤とした指導・支援を推進し、一人ひとりが安心して学び合える環境づくりを進めていく。		
	つながる 広がる学校	○「挨拶」「懇談」「情報発信」で輪を広げる ○地域・保護者との横のつながりを広げる ○一中区学校園との縦のつながりを深める	☆個に応じた学習活動と全体追究とのバランスに課題があり、児童の主体性や学習意欲をさらに高める授業改善が求められる。 ☆友を受け入れる態度の育成や、一人ひとりに合った活動の場の充実、学級を超えた児童理解の深化には引き続き課題が見られる。		○						
領域対象	評価項目	評価の観点		成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策	
教育活動	主体性の追究	授業改善～子ども主役の授業～	・子どもの願いや問題意識を元に学習問題を設定し、子どもが自ら学ぼうとする導入場面を設定していたか。		○前時の復習や疑問、児童のつぶやき、印象的な資料提示など、子どもの意識にそった学習問題を設定し、「なぜ」「どうして」と思える導入を実践した。 ☆発問や活動内容の設定が難しいことや、学習問題の難易度が子ども一人一人に適しているかを見極める点において課題が残る。		○				単元を貫く「大きな問い」を大切に、子どもが考え続けられる問いを設定する。教材研究を積極的に行い、どの単元でも子どもが願いや見通しをもてるような学習問題を設定する。
		子どもたちが自分で計画実行する学習	・自分なりの方法で問題解決の見通しをもつ場面と、本時の学習のよさをメタ認知する場面を設定したか。		○振り返りで子どもからどのような言葉を引き出したかを想定した授業づくりを行った。練習問題を解くことで、本時の学習のよさを実感できるようにした。 ☆振り返りの時間が十分に確保できないことや、まとめが教師主導になってしまう。主体的な学びや意欲の向上につながるような授業構想をしていく。		○				振り返りのポイントを明確にし、子どもが自分なりの方法を見つけられる思考の時間を保障する。そのために、単元の展開を見通した丁寧な教材研究を行い、状況に応じて柔軟に対応できる授業づくりを目指す。
		子どもたちに合わせた多様な学習スタイル	・一人で学ぶ、友とともに学ぶなど、自分に合った学び方が保証される場面を設定したか。		○一人で考える時間と友だちと意見交流する時間を意図的に設定し、じっくり考える時間と意見交換しながら気付きを広げる時間とを組み合わせた。 ☆一人ひとりに合った活動の場を十分に設定することや、全体追究と個人追究のバランスを取ることに難しさがある。		○				「学習形態」「進捗状況」「学習内容」の観点から、学び方を選択できるように工夫する。座席配置や生活班の構成を見直し、自然に関わる機会を増やす。
	多様性に向き合う	よさやちがいを受け入れ 認め合う	・友のよさに気付いたり、その人らしさを受け入れる態度が育まれるような授業や学級経営を行ったか。		○友のよさやうれしかった経験を紹介しあう場面を継続的に設けたり、頑張りや望ましい行動を教師が価値づけたりし、認め合う雰囲気を作るようにした。トラブルが減ったり、自分たちで解決しようとする姿が見られるようになってきた。 ☆友だちを受け入れる態度の育成に課題がある。		○				友だちのよさに気付くと共に、受け入れる気持ちの涵養を目指し、学級としてまとまりを高める活動を取り入れ、相互理解をさらに深めていく。
		「憧れや思いやり」が生まれ「笑顔のボタン」をつなぐ交流活動	・学年や学級の枠を超えて、つながり合う異学年交流活動の機会を設けているか。		○あさか祭、焼いも大会、読み聞かせなどの活動を設定したが、上級生としての自覚の高まりや思いやりの心の育成につながった。 ☆決められた時間以外での関わりを増やすことは難しく、交流の機会が限定的になってしまったという点に課題が残る。		○				異学年交流を日常生活の中で継続的に関わる形にしていく。なかよしペア学年の担当と連携し、年間を通して計画的な交流を進めていく。
		一人ひとりが輝き活動できる場づくり	・目標をもち、継続的に取り組んだり、新たに挑戦したりして、自らの成長に気付き、自信につなげることができるような取組ができたか。		○漢字ミニテストや宿題提出率の向上など、具体的な目標を設定し、学期ごとに自分の目標を決めて継続的に取り組む仕組みを整えた結果、自分の頑張りを自覚しながら取り組む姿が見られた。 ☆取組のよさを自覚できるような場面を設定していく必要を感じている。		○				チャレンジタイムや家庭学習の取組を基に、自分で目標を立て自己評価できる仕組みを構築し、年間を通して取り組むようにしていく。
学校運営	つながる広がる学校	あいさつと返事で人と人の心をつなげる	・子どもたちが相手に気持ちが伝わるあいさつのよさに気が付くように、教師自らが気持ちのよいあいさつを実践したか。		○教師から進んで声かけをすることで、挨拶を返す児童が見られる。挨拶する時には、目を見て大きな声で伝えることができた。 ☆気持ちよく応じる児童が多い一方で、自分から進んで挨拶する姿は十分とはいえない。		○				声に出してあいさつすることが苦手な子どもに対して、その姿も受け止めつつ、声を出してあいさつすることのよさを粘り強く伝えたり、その子にあった挨拶の方法を考えたりしていく。
		地域学習とキャリア教育で地域とつなげる	・地域の素材を教材化し、授業実践したか。		○地域素材(海野町商店街・千曲川地層)や、校内資料室の資料(焼夷弾・養蚕)を教材化し、単元を構築した。 ☆地域素材の魅力について、教師自身がさらに知っていく必要がある。		○				職員研修において、地域素材の開発や素材を教材化する機会をもつ。教科等の学習内容と照らし合わせ、発達段階に応じた単元が構成できるようにしていく。
	教職員の姿勢	共に学校を拓き信頼関係をつなげる	・学校での子どもたちの学びの様子を保護者や地域に発信することができたか		○学級通信や学年通信を通して学校での活動を発信することができ、特に学年通信では写真を用いて様子を紹介することができた。 ☆発行回数は学級によってばらつきがある。		○				週1回、隔週で1回など、発行する回数を具体的に決める。出来事があった週のうちに発行できるよう意識していく。
		教職員集団を学びと成長へとつなげる	・新しい発想で、前向きに、一歩でも前進しようと挑戦を試みたか。		○業務改善に向けて自分にできることを考え、共有しながらチームとしてよりよい方向を検討できた。 ☆自分のやり方に固執してしまい新たな一歩を踏み出す勇気をもてないこともある。教育状況の変化に合わせて挑戦する気持ちをもたいた。		○				自分の学級の当たり前や教師自身の当たり前を見直し、目の前の子どもたちの姿に応じた学習指導、生徒指導のあり方を模索していく。
		あらゆる垣根を越えてチームによる支援体制へとつなげる	・学級や学年の枠を超え、多角的な視点で児童理解を深め、よさや可能性を引き出すようにしているか。		○日常的に児童の様子を共有することができ、よい行動を見つけた際には積極的に声をかけ、そのよさを認めてきた。 ☆他学級児童への意識は十分とはいえなかったが、学年会で教科担任制の中で見てきた姿を共有することができた。		○				生徒指導部会で児童の様子を語り合い、児童理解を進めると共に、内容を自学級へ還元する。報告にとどまらず、課題解決に向けて協議する時間を設ける。

※評価基準 A…達成できた B…おおむね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった